

The Rotary Club of Arida 2000

Club Bulletin



2004-2005

No. 220

第2640地区

会長 佐藤 栄志
幹事 上田 益稔
クラブ会報委員長 芝 毅

例会日 / 毎週水曜日 19:00
例会場 / 吉備インターゴルフセンター 2F
事務所 / 〒649-0304 有田市箕島33-1紀州有田商工会議所2F
TEL / 0737-85-3620 FAX / 0737-82-1020
E-mail / arida2kr@naxnet.or.jp
URL / http://www.naxnet.or.jp/~arida2kr/
創立年月日 / 2000年 4月12日

職業奉仕・米山月間

四つのテスト 1. 真実かどうか
言行はこれに照らしてから 2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム

平成16年10月24日(日) 第221回

- ・移動例会：ボウリング大会
(於：トークランドボウル)
- ・ソング：「我等の生業」

次回のお知らせ

平成16年10月27日(水) 第222回

- ・卓話：彫刻家 中井 由純 様
- ・ソング：「手に手つないで」

前回の報告(第220回例会)

開催日 平成16年10月13日(水)

点鐘 佐藤 会長

ソング 『君が代』 『奉仕の理想』

ゲストの紹介

国際ロータリー第2640地区

ガバナー 中島治一郎 様(泉大津RC)

ガバナー補佐 田中 良典 様(有田南RC)



会長の時間 (佐藤 栄志 君)

皆さん、こんばんは。本日の例会ご出席有難うございます。今日は、中島ガバナー、田中ガバナー補佐をお迎えしての公式訪問例会であります。我々のクラブにとって、ガバナーを直接お迎えしての公式訪問例会は、実質初めての経験であります。どうか、有意義な一日にして頂きたいと思っております。

さて、秋のテレビ番組として、テレビ朝日・NHKが共に忠臣蔵を放送するという事であり、今日は忠臣蔵について少し話をさせていただきます。

播州赤穂・浅野内匠頭長矩は、江戸城松の廊下において、吉良上野介義央に刃傷に及び、内匠頭即日切腹・御家断絶、一方の上野介には何の咎めなしという、喧嘩両成敗という当時の慣習から言えば一方的な片手落ちの裁断が下されたのであります。

これに対して、城代家老大石内蔵助良雄を中心とした赤穂藩士46人は結束を固め、様々な困難辛苦を乗り越え、元禄15年12月14日の夜、吉良邸に討ち入り、亡君の恨みを晴らすという話であります。

この忠臣蔵の話の中には、いろんな名場面がありますが、私が特に好きな場面が2つあります。

1つは、吉良邸討ち入りを前にして、内蔵助が亡き主君の未亡人のもとへこの世の最後の挨拶に行く「南部坂の別れ」であり、もう1つは、本日お話をする場面であります。

吉良を討つべく、内蔵助一行はいよいよ江戸へ下っていくわけですが、内蔵助の動向は世間もたいへん注目しており、とりわけ、吉良・上杉両家は警戒の目で見ていたわけであり。ですから、内蔵助は本名を伏せ、日野家人・垣見五郎兵衛と名乗り、江戸へ向かっておりました。

そんな内蔵助一行が宿泊していた旅籠に、本物の垣見五郎兵衛一行が出くわしたわけであり。旅籠に立っている看板を見た五郎兵衛は、自分の名を語る不届き者がいるという事でたいへん立腹し、内蔵助の部屋へ乗り込んでいったのであります。

赤穂の浪士たちは驚き、うろたえ、右往左往する中で、ただ一人内蔵助は悠然と構え、五郎兵衛を迎えるのであります。

お互い「自分が垣見五郎兵衛である」と主張して譲らず、平行線をたどるわけですが、「それでは証拠を見せる」と問い詰められた内蔵助は、巻物を五郎兵衛に手渡したのであります。

相手が偽者である事



は、本物の当人が最もよく分かっているわけで、五郎兵衛は証拠の品とはどのようなものかと、半ば興味を持って巻物を開けてみると、なんとそれは全く何も書かれていない白紙の巻物でありました。驚いた五郎兵衛はすぐさま内蔵助を見ると、内蔵助は正座し静かに目を閉じておりました。

しばし沈黙の時間が流れ、全てを察した五郎兵衛は、内蔵助の前にひざまずき、「お名前を語って申し訳なかった。どうかお許し願いたい。」と、深々と頭を下げるのでありました。

そんな五郎兵衛に対し、内蔵助は言葉では言い尽くせないほどの感謝の心を持ちながら、あえてそれをかみ殺し、「わかればそれでよい」というような態度で、ただ頷くのみでありました。

「お許し頂きかたじけない」再度頭を下げた五郎兵衛は、「偽者である事がばれてしまった今となっては、こんなものは無用の長物となってしまった。どうかそちらで適当に処分して頂きたい。」と言って、身分を証明する本物の巻物を内蔵助に手渡すのでありました。そして、障子を開け、部屋を出ようとした時、内蔵助のほうを振り返る事もなく、背を向けたまま、「見事、御本懐を」とポツリとつぶやき、去って行くのでありました。

五郎兵衛が去るやいなや、目にあふれんばかりの涙をためた内蔵助は、その五郎兵衛の出て行った方に向かい、一言も発する事なく、額を畳にこすりつけ、ただただ五郎兵衛の心遣いに感謝するのでありました。

ほとんど台詞のない、表情だけによる両者の対談であります。お互いの心と心のキャッチボールは、言葉以上の迫力と感動をもって心に突き刺さってくる場面であります。

現在の国際化の中で、異なる言語・異なる文化の者同士が理解しあう為には、10を伝えるのに、15も20も言葉を尽くさなければならぬのも確かな事ですが、その影響かどうか、言語・文化を同じくする日本人同士のコミュニケーションにおいても、少ない言葉では意が通じなくなっているように思います。

かつて日本には、言わず語らずに通じ合う、阿吽の呼吸、少ない言葉で通じ合う気脈というものがあり、それが人間関係を濃密に結びつける要素になっておりました。

しかし、よくしゃべらなければ分かり合えない、少ない言葉では意が通じなくなっている状態と人間関係が希薄になっている最近の傾向とは、何か無関係ではないように思えてなりません。

よくしゃべらなくても、多くの言葉を使わなくても通じ合う、分かり合える関係、そうしたものが有田2000クラブ内に構築できたら素晴らしいなあ...と、私は思います。これで会長の時間を終わります。有難うございました。

幹事報告 (上田 益稔 君)

理事会報告

1. 例会プログラムについて ... 資料通り、承認
2. 移動例会(ボウリング大会)について ... 資料通り、承認
3. 公式訪問・クラブ協議会について ... 資料通り、承認

4. IMについて ... 芝毅君に発表して頂く
 5. 御坊東RC合同例会 決算について ... 資料通り、承認
 6. 会計報告について ... 資料通り、承認
 7. 青少年交換について ... ホストファミリーだけでなく、メンバー個々の機会をとらえて学生と交流を持って行く。
 8. 青少年交換会計報告 ... 資料通り、承認
 9. 社会奉仕委員会事業計画 ... 千葉山周辺(主に鷲ヶ峰)の清掃
- 11/7(日)14:30 インターゴルフ集合
15:00 ~ 作業開始(約1時間)草掃除・ゴミ拾い等
鎌・手袋等、ご持参下さい。

例会変更

1. 田辺東RC: 10/27(水)
12:30 ~ ガーデンホテルハナヨ
13:00 ~ (株)紀州民報 (職場訪問)
2. 海南RC: 10/20(水) 12:30 ~
海南省七山ジョイバック(職場例会)

ニコニコ箱の報告

佐藤栄志君:中島ガバナー、田中ガバナー補佐様、本日お越し頂き有難うございます。今回の例会が意義のあるものになる事を願っています。

上田益稔君:中島ガバナー様、本日はお越し頂き有難うございます。

石田稔君:中島ガバナー様、御訪問有難うございます。

家本欣明君:中島ガバナーさん、田中ガバナー補佐さん、本日は有難うございます。鈴鹿F-1GPに行ってきました。台風22号の為、予選と決勝を1日で観戦できてラッキーでした。

森下常一君:中島ガバナー様、本日、お世話になります。

中野康宏君:先日の連休に近江八幡に行きました。そこで近江商人の理念として「三方よし」の考え方を知り感心しました。三方よしとは、「売り手よし、買い手よし、世間よし」とのことです。

太田善雄君:来週のボウリング大会、よろしく願いします。

坂井佐千子君:中島ガバナー様、田中ガバナー補佐様、御訪問有難うございます。

下林善信君:中島ガバナー様、田中ガバナー補佐様、御訪問有難うございます。

須佐見勉君:中島ガバナー様、田中ガバナー補佐様、御訪問有難うございます。

田中重造君:ガバナー中島治一郎様、本日は有難うございます。

吉水志朗君:本日は、中島ガバナー様、田中ガバナー補佐様、御訪問有難うございます。ガバナーアドレス宜しくお願いします。来週は布教師会の全国総会を白浜で開催します。その事務局で忙しい日々を送っています。

出席報告 (太田 善雄 委員長)

- ・10/13 出席率 91.30% (会員数23名 出席者21名)
- ・前回、修正なし。

ガバナーアドレス

国際ロータリー第2640地区ガバナー
中島 治一郎 様

今晚は。

クラブを作られて5年目になると伺っておりますので、今日は、その辺のお話をさせていただきます。

私は25歳の時、泉大津RCに入会致しました。その時は日本で一番若いロータリアンでした。平均年齢が62歳位でしたから、私は半分以下でした。どのようにして若くしてロータリアンになったかと申しますと、その頃にはアディショナル会員というのがありました。誰か正会員がおりまして、その方が自分の代表する職業分類でもう1人加盟してもかまわないとおっしゃいまして、その方が、他に推薦人を得て、理事会が承認すれば、その人を追加で加入できるという制度でありました。

私は親父のアディショナル会員として入会したわけです。その正会員がやめると同時にアディショナル会員もやめるという制度であったので、親父がやめる時、同時にやめることになっていたのです。その頃のガバナーの要請といいますが、「若い人が残ってくれるのはいい事なので、親父さんがやめてもそのまま残ったらいかがですか。」と言われまして今度は正会員として残って今に至っているわけです。

それから44年目に入り、私は今69歳です。人生の半分以上をロータリアンとして少しでも世の中を良くしていこうと思って過ごしている訳です。今つくづく思いますのは、ロータリーに入れて良かったと思う事です。私は、1986～87年に一度ガバナーを務めており、18年ぶりに再登板したわけです。2回もガバナーをしているからロータリーに入ってよかったという決してそういう訳ではありません。ガバナーというのは十分大変な役割です。もしかしたらやらせてもらってなかった方ほうが楽だったかもしれません。それも含めましてロータリー人生を十分エンジョイさせて頂いている訳です。

読まれた方もいらっしゃると思いますが、大学は日本のを出ていません、アメリカの大学を出ています。4年間向こうで過ごして帰ってまいりましたので、日本人としては比較的理屈っぽい男になっておりました。アメリカ人は小さい頃から議論好きでして、盛んに議論を致します。10人いますと、皆肌の色は違うし宗教も違う、信条も違います。自己主張しないとなかなかそのグループのリーダーになれないのです。小さい頃から議論をして相手に勝つという努力を一生懸命します。従いまして、大学で一緒になった連中には必ず議論負けをしたものです。

議論が好きという事は、理屈っぽいという事になるのですが、私は日本人としては、理屈っぽい人になって帰ってきました。帰ってきてから1年目位にロータリーにアディショナル会員として入会することになりました。ロータリーが何かを知らずに入会するのは失礼だと思い、紹介された時ずいぶん質問致しました。スタートの時、やはり納得して入るのが大事だと思います。振り返ってみて、そういう風にスタートできたのは良かったと思います。

紹介者の方から色々聞いた訳ですが、私の質問には非常に真面目にきちんとお答えを頂いたことを今でもはっきり覚えております。

まず、「ロータリーって一体何ですか?」と聞きました。その方は、「一週間に1回ミーティングをする。それに出席する事は義務付けられているから、これはぜひ守ってほしい。そして、そこでみんなで楽しく時間を過ごすから、色々世の中の事を話題にして、今うちの街ではどういうニーズがあるのかなど、一生懸命知る努力をして、究極的には世界の平和にも貢献しようという事で、みんなで話し合っ出来る事からやろうじゃないか、というような事を相談している会です。まあ突き詰めて言ったら他人に対して思いやりを大事にしている会、そしてその思いやりを、普及しようと頑張っている会」と言われました。

「出席率は?」僕は社会人になって一年目でありましたから、非常に気になって聞いたら、「60%を切ったらダメ、首になる。で、自分のクラブにも30%は切ってもらったら困る。」と言われました。それ位だったら、何とか出来るだろうと自分でも思いまして、入ろうかなと思ったのです。

もう一つ、「どういう活動をするのか教えてほしい。」というのを聞きました。

「ロータリーには四つの大きな奉仕部門(四大奉仕部)があって、部門に分かれて皆で色々奉仕しようかという事です。一つは、クラブ奉仕と言って、皆で一週間に一回会ってそれを楽しいものにしていこうという委員会です。この部門の目的は、会員が知り合いを広めることで、知り合いを広める為に色々な仕組みを考え、実行して行くことなのです。」

「二番目には職業奉仕、これはロータリーにしかない、ものすごく大事な委員会です。」

「何をやるのですか?」と聞くと、『職業奉仕』には、三つ目的があるという事を言われまして、「あなたは、あなたのお父さんの職業を代表して入ってきた人だから、その職業の同業の方々とか、お得意先とか、従業員にロータリーというのはどんなものか、ロータリーにはどんな哲学があるか、どんな考えがあって、何をやっているのかを説明してもらおう義務がある。」と、おっしゃられました。

「二つ目には、あなたの職業の社会における重要性、どういう価値があるかという事を、ロータリーの皆様に、そしてロータリーを通して社会の皆様方に知らせる努力をする必要がある。そういう目的があります。」

「職業奉仕の3つ目は、あなたの職業を価値のあるもの、そして品位のあるものにする努力をしてもらおう。そういう目的もあります。」「その3つが職業奉仕です。」と教えられました。



「社会奉仕というのが、その次であなたの住んでいる街を住みよい街にするという努力をするのが目的です。」

それは、私も難しくなく出来るだろうと思いました。

「最後は国際奉仕で、これはあなたには、ものすごくやりやすいと思う。国際的なお付き合いを通じて、平和の増進をはかる、大きな事を言っても仕方ないから、色々なプログラムがあるから、それを一生懸命してくれたらいいのです。それは、世界平和のため国際的に相互理解を深めるということを目的として、活動する部門です。」といわれました。

こういう風に目的をきちんと聞いてから入った。これも良かったと思います。今から考えますとロータリーの『綱領』という表現で載っていますが、『綱領』は、日本語の表現としては難しいのではと思います。英語では『オブジェクト』となっております『目的』と言う意味なのです。私に色々説明してくれた方はもう亡くなりましたが、『綱領』という難しい言葉をお使いになりませんで、「それぞれの目的はこうです。」というように解説して頂きました。

「それで、『職業奉仕の中で同業者やお得意先や従業員に色々なロータリーの哲学を伝えないとイケない。』と言われましたが、「ロータリーの哲学ってどんなものですか？どんな風につたえるのですか？」「ロータリーは色々な宝物を持っています。それを上手に同業者、従業員に伝えてほしい。私たちは『決議23-34』というのを持っていて、これは大事な哲学です。人間誰でも自分が一番大切だと思っているわけですが、自分の利をはかることは少し抑えて、他人の利をはかる事を併せて考えないとダメ、これは難しいことですが、この『利己と利他の調和を図る』、それがロータリーの哲学です。」と教わったのです。これは、ロータリーの存在理由の真髓をついていると思います。

皆様方も有田2000RCをお作りになって、創立会員として名を連ねられておられるわけですが、平均年齢をみますと、50歳！これは本当にうらやましく思います。私、今日は52番目のクラブ公式訪問ですが、平均年齢としては断トツに若いのです。その若いエネルギーで「この地域社会を住みよいところにするために何かやってやろう！」という風に若い皆さんが全員参加の形で何かを考えられて、目的達成の為に、「やってやろうじゃないか。」と思われたときには、チームワークも一体感も出てくるでしょうし、他から見ても羨ましいような存在になられるに違いないと思います。

創立5年のクラブ、平均年齢の若いクラブが、本当に羨ましい存在であると思います。皆様方は御自分ではそうは思わないかもしれませんが、傍目にはそう見えるわけです。ぜひ傍を羨ましがらせるようなご活躍を期待したいと思います。

「他の宝物とは？」と聞き、その人に教えていただいたのは『4つのテスト』です。

これは今でも自分の心の中の規範として持ち続けています。私は、25歳の頃には走りながら物を考えて、着いたら実行するという慌て者でした。失敗もおそらく随分するだろうと思っておりました。4つの

テストは『言行の前に一度それに照らし合わせてみる』と書いてありました。口から出してしまいう前に、行動を起こす前にそれに照らし合わせてみるというのは1コマおけるからこれはいい！そう思った日から実行致しまして今に至っております。

ロバート・テラーという人が『4つのテスト』を使って、あの大不況の時に潰れた会社を何社も復活させたのです。そういう成功した歴史をちゃんと持っている生きた言葉であるという事は後でわかった事ですが、なるほど一見やさしい子供っぽいようなテストという風に思いましたが、内容は大いにあるように思います。これは、年が経るに従い段々味のある言葉に思えてくるわけです。『真実かどうか』これは当たり前のお話であります。『フェアかどうか』これはそんなに難解な話ではないと思いますが実際はこの2つを常に実行するのは難しいことです。

私はロータリーに入り、『4つテスト』の信条を堅持して、そして大いに努力して、嘘はつくまいと思いい、フェアな事だけをやりたいと思いました。ロータリーの例会へ出て、そういった話を皆様として、その気になって真面目にやろうと浮世へ出て行きますと、方便的な嘘はつくし、アンフェアな事もやりまます。次の例会へ出て、大いに反省するわけですが、あれだけ『4つのテスト』に従おう思ったのに、「やってしまったなー」とロータリーの例会の中で反省して、次の一週間は真面目にやろうと再び浮世へ出て行くのですが、又やってしまうわけです。

しかし、段々真実を守れない事が気持ち悪くなって来て、真実を貫くことに徹するようになりましたし、フェアも同じでありました。『4つのテスト』という規範を心に掲げてなかったらずいぶん間違った方向に行ってしまったのではないかと思います。私にとって非常にプラスになって来た訳です。

そして「みんなのためになるかどうか」は非常に味のある言葉だと、段々年をとるにつれて思うようになりました。

最近テレビにペコペコ頭を下げて謝る大企業の経営者がよく出ます。彼らにとりまして『みんな』というのは、おそらく、自分の会社の社員と、精々得意先や株主ぐらいが『みんな』だと思います。大企業の経営者というのはもっと社会に対しての責任感が旺盛でないといけません。彼らにとっての『みんな』は、もっと広い範囲の『みんな』でなければならぬと思います。彼らの中にはロータリアンもたくさんおられますが、もし『4つのテスト』を若い時から信奉していて自分のものにしていたら、もっとたくさんの人を『みんな』と捉えたと思います。

人間の甲斐性というものは、『みんな』が多ければ多いほど甲斐性があるという事になると私は思います。自分ひとりの面倒しか見られない人、いわば極端に小範囲の『みんな』、誰も他人が入らない自分独り。それで家族だけの面倒が見られる人は家族だけが『みんな』、近所の人々の面倒も見られたら近所の人も含めてが『みんな』、町全体の面倒を見られたらその範囲が『みんな』、国民全体が『みんな』と思えば、これはかなり大きな人物という風に『みんな』の大きさが甲斐性だと思います。この「みんなの為になるか

どうか」というのを、常に自分の規範として持っておりますと、やはり自然に大きな『みんな』になって行きます。これは人生におきまして非常に大きなプラスになると思います。

そういうことを含めまして、この『4つのテスト』というものは、馬鹿にならないと思っております。

今、日本の次の時代を背負う青少年の問題をロータリーは随分取り上げています。私にとりましても大いなる関心事ですが、彼らの心には、きちりした規範がありません。私たちの子供の頃には、親の背中から色々なことが学べました。価値観、事の善悪、そういったものを親の背中から学んで、自分の価値観、意識、善悪に対する判断力などを養って大人になっていきました。

戦後の空白の50年には、そういう家庭教育もなければ、学校でもそういう意味での教育はありませんでした。したがって彼らの心には本当に規範がありません。これはどうかしなくてはならないと思います。私はこの『4つのテスト』さえ何とか彼らの心に埋め込んでいければ、問題は無いのと思います。これを彼らに伝えていくのは難事業だと思います。至難の業だと思います。しかしせつかく持ち合わせたこの『4つのテスト』、何とかロータリーの手で若い世代に染み込ませていけないかなと思います。この有田2000RCで、有田の青少年の心にこの『4つのテスト』を何らかの形で埋め込んでいってもらえれば有難いなと思います。

今、青少年の健全育成のことについてお話が出ましたので、私の町で青少年の健全育成のことでサクセスストーリーがございますので、聞いて戴きたいと思っております。皆様方のクラブのように5年目くらいのクラブになりますと、色々な奉仕活動を実際にされていると思っておりますが、中々サクセスストーリーというのは出てこないと思っております。少々のことを行ったところで世の中は動かないと思っております。むしろしゃんとお思いますが、実は動くのであります。そして皆様方の地域社会におけるニーズの把握や、そのニーズを生かすための努力が、成せば成るのだという風に思っただけの一例になればと思っております。お話をいたします。

今から4年半くらい前に私どものロータリーの例会卓話に中学校の校長先生をお招き致しました。私どものクラブでは地域社会がどうなっているのか知るために、月に一度くらいは市長や警察署長さん、消防署長さん、学校の先生をお招き致しまして、現在そういった面ではどうなっているかをお話願うのです。

その時、たまたま3つある中学校の校長会の会長さんで、3つあるうちの1つの中学校の校長先生をお招き致しまして、お話をしました。冒頭にその校長先生が、「今この泉大津市で、不登校の生徒が何人いるか皆様知っておられますか？」と聞かれました。皆様方も同じ質問をされたら答えられるかどうか分かりませんが、私たちは当時60人弱くらいおりましたが、誰一人として不登校の生徒が何人いるか知りませんでした。ロータリーというのは、地域社会を住み良い所にしようと謳っております。又、そのように一生懸命努力をしているつもりでありまし

た。しかしながら、その自分の町に学校に行かない不登校の生徒が何人いるか知らなかったのです。誰一人として答えられなかったのです。私も非常に恥ずかしい思いをしました。言っている事としている事が違うではないかと思えました。「不登校の生徒の数も知らないで何が社会奉仕だ！」と思えました。非常に恥じ入りまして、校長先生に不登校の生徒は何人ですかと問うと、「108人います。」と言われ、皆驚きました。校長先生に「その108人を減らす協力をしたいと思っておりますが、なにが出来ますか？」と尋ねました。校長先生は待っていたように「一番して頂きたいのは、皆さんの職場で生徒を預かってほしい。子供達は世の中を生きて行くのは非常に簡単と思っておりますので、どれだけ大変な事をして皆が生活しているかというのを知らせてほしい。単に預かるだけではなく社長さんが必ず子供にどんなに苦労してこの仕事をしているか、その報酬がどれだけのものか等を子供にははっきりと言ってやってほしい。」と言われました。「一体何人面倒見たらよろしいのですか？」と聞くと、「中学校2年生全員です。」と言われました。

「3校の2年生全部といいますが、ロータリーは60人しかいませんから、とても全員は無理です。商工会議所の方々に協力していただいて努力してみます。」と時間を頂きました。商工会議所に相談しましたところ「やりましょう。」ということになりました。ちょうど話を伺ってから3ヶ月位で実行しました。2年生の生徒を全員預かり、経営者に苦労話を彼等にしてやって欲しいとお願いしました。これが非常に子供たちに感銘を与え、彼らも初体験で驚いた様子でした。先生が生徒たちに体験記を書かせてくれました。その中で「今までは世の中を甘く見ていたが大変だという事が分かった」等の内容が書かれてありました。その体験記を全ての経営者にフィードバックしてくれました。それを読んだ経営者の皆さんは非常に感動し、「1日、2日預かってこれだけ皆に効き目があったのなら毎年やりましょう」ということになり、今に至っております。

それを見られた学校の先生方が、経営者の方々がこれだけ色々努力をしてくれているのに、私たちは何もしていないというのは恥ずかしいと言いつち上がった訳です。早速色々な行動を先生方は起こされました。直接的に生徒にあたるということもされ、親に話をする機会を持ちたいという努力もされました。映画会なども開催されることになりました。いい映画を生徒や父兄に見せる会というのを始められました。3ヶ月に1回開かれました。1日に3、4回上映しました。夜には共働きの人も来られますので、夜にも上映しました。大体不登校の生徒の親というのは共働きです。話の会があるからといっても絶対出てこない。出てくるのはよい子供の親ばかりです。来てもらわなくてもいいという人ばかりです。来て頂きたい親は来てくれません。それで映画会をやり、粘り強く招きましたら、出てくるようになりました。今は、その映画会は大流行で1日4回の上映では中々入りきらないといった具合になりました。活性化しております。

そういうことがありまして世の中が動き出してき

たのです。先生がその気になるというのは凄いことです。段々不登校の生徒が減っていったのです。家庭教育、学校教育、社会教育が3つそろえて子供の事を考えだしたのです。そろって何かをしようということになったのです。やはりこれは大きな成果を生みました。この前、教育長に聞きましたところ、ほとんど不登校の生徒はいませんということでした。0に近くなってきたのです。私は、これは大きな動きだと思います。成せば成るということが分かった先生方はもっとやる気になります。そして学校が一旦正しい方向に向かうと中々元には戻らず良くなるばかりです。好循環し始めたのです。好循環の動きを出すということは何にとりましても大切な事だと思います。

皆様方におかれましても、この有田で何か1つやってみる。大きなことじゃなくても、何か行動を起こすことが大切です。行動を起こしてそれを皆が参加してやる。そして皆で達成感を味わうというのが非常に大切だと思います。

「ロータリーには観客席はない」ということも教えられました。初めはどういうことか良く分からなかったのですが、今はよく分かります。ロータリーというところは観客席に座って見たり批評をしたりする所ではなく、皆が演じる、皆が参加するという実践のクラブであります。そして一体感が出てきて、皆で成功させて、皆でその喜びを分かち合い感動し、またやろうということになる所です。そういう好循環に恵まれたクラブを、私は非常に活性化された良いクラブと言えらと思います。早い話が、皆様方がこれをお聞きになりまして23人くらいでは、何も出来ない、たいしたお金も集まらないと思われるなら、7人増やして30人にすれば良いのです。まずそこから始める、仲間を増やして、少しは力強いクラブにしよう、7人を増やすにはどうすればいいのだろうと、皆さんで一度考え、手分けして3人位ずつのグループで1人探すようにしましょうという風にしてみてはいかがでしょうか。

実はそのようにして成功されたクラブがあるので。田辺はまゆうRCです。まだ出来てそう間もない20人ほどのクラブです。20人に減ってしまったのです。今年度の予算を立てようと思ひまして、今年度の地区協議会後に予算をつくりますと、20人しかいないので、赤字予算になりました。赤字予算なんてロータリーでつくれませんから、どうしようか皆で相談した結果、仲間を増やそうということになり5

人増やせば何とかなるが、どうせ増やすなら10人増やそうということになりました。今の人数の5割増しですが、一度2人で1人を探してみようということになりました。今年7月から9月いっぱいくらい迄で7人増やされました。もう後3人候補者は決まっておるそうです。最初の目標の10人集まることとなります。これは、すごいことだと思います。仲間が増えたこともさることながら、会計が黒字になることもさることながら、絶対無理だと思った計画が出来た！私たちが力を合わせるとかなりのことが出来るという達成感を味あわれたのです。これが大きいのです。そしてその30人で何かしようとしておやりになったら、私は必ず成功すると思います。これは、是非皆様方にもご参考にしていただきたいと思ってお話した訳です。

グリーン・エステスさんという方が今年度のRI会長でございますが、その方の方針などをお話しするのが主旨だったのですが時間が来てしまいましたので、それはクラブ協議会の中で追ってお話をしていきたいと思ひます。今年はロータリー創立100周年目の年になります。次は100年たたいと来ないわけでありまして。本当に意義のある年だと思います。こういう年に皆様方のように若い方々が一丸となられて何かをやられる、種々と沢山される必要はないと思ひます。

青少年交換の学生を1人預かってもらっているという事を聞きました。これは国際理解を深めるに非常に意義のあるプログラムです。私も数え切れぬほどの生徒を預かってきました。昨年度も預かりまして別れ際には感動の涙々でした。非常によいプログラムです。この方を出来るだけ沢山のご家庭でお預かりになって、良いプログラムであるという事を味わって頂きたいと思ひます。彼女が帰り際にはおそらく預かれた皆様は涙を流されると思ひます。

それ一つでも私は立派なご奉仕だと思いますが、その他にこの地域社会を住み良い所にする為にも少し何かやろうと思われたら、色んな方を講師にお招きになって町のニーズについて聞かれる事だと思います。こういうニーズがあるのか、それだったら皆で手分けしてやろうという事で目標を定められて、一つでも良いから何かを成功させ、達成感を味あわれ、感動されることが大切だと思います。

御静聴を感謝します。ありがとうございました。

閉会点鐘 佐藤会長

